

小学校家庭科被服分野の大学生の学習分析

Learning Effect Analysis of University Students in Clothing Area of Elementary School Home Economics

小井戸あや乃¹, 大藪千穂²

KOIDO Ayano¹, OYABU Chiho²

[キーワード Keyword]	小学校, 家庭科, 被服分野, 大学生
[所属 Institution]	¹ 兵庫教育大学連合大学院 (Graduate School of Education, Gifu University), ² 岐阜大学教育学部 (Faculty of Education, Gifu University)

[要旨 Abstract] 本論文では、国立大学教員養成学部で小学校家庭科教育法を履修している大学3年生212名に対して、小学校の家庭科被服分野に関する事前アンケート・小学校家庭科の衣服の着方についての講義・講義後に事後アンケートを実施し、環境に配慮した消費者を育成するために、大学生の実態から、小学校家庭科衣生活についての授業でこれから大切にすべきこと、改善すべきことを明らかにした。この結果、実践的・体験的な授業については鮮明に覚えている学生が多く、多くの授業で実践的・体験的な授業をしていく必要があることが分かった。また現状を知ることが重要であり、生活を工夫することは、自分の生活も環境もよりよくなると理解することにつながる。環境の変化を感じることは難しいが、現状と学習した内容をつなげて考え、生活を工夫することが地球環境をよくすることにつながることを理解できる授業が必要であることが明らかとなった。

1. はじめに

2015年9月に開催された国連サミットでは、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が加盟国全会一致で採択された。その中には、持続可能でよりよい世界を目指すために「持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals)」が掲げられた。世界中で、SDGs達成に向けて積極的な取組がなされている。第2の汚染産業とみなされているファッション業界の問題は、生産にかかるエネルギー量やライフサイクルの短さなどから環境負荷が非常に大きいため、喫緊に解決すべき課題である。日本では、環境負荷が大きい衣服を大量生産・大量消費・大量廃棄している。不要になった衣服の68%は可燃ごみ・不燃ごみとして廃棄され、その95%が焼却・埋め立てされている。また国内で処分されるだけでなく、途上国など海外に運ばれ環境汚染の原因になっている。この課題を解決するために、SDGsの目標の一つである目標12「つくる責任つかう責任」に関連して、「サステイナブルファッション」や「エシカル消費」への取組が広がっている。

環境省では、サステイナブルファッションの取組の1つとして「ファッションと環境へのアクション」を提案している。これは、消費者と企業と一緒に取り組める5つのアクションであり、今持っている服を長く大切に着ることやリユースでファッションを楽しむことなど、消費者の役割が示されている。消費者の役割は、小学校家庭科で学習する。平成29年に告示された小学校学習指導要領解説家庭編 (以下学習指導要領) の「消費生活・環境」において「買物の仕組みや消費者の役割」が新設された。「買う前に本当に必要かどうかをよく考えることや、買った後に十分に活用して最後まで使い切ることを理解できるようにする」とあり、消費者の役割が明記されている。衣服を長く利用するために手入れの方法を学んだり、不要になった衣服や布を使って生活を豊かにするものを製作したり、サステイナブルファッションと消費生活を結びつけた学習がある。環境省が提案しているサステイナブルファッションでは、長く着ることや廃棄の仕方、選び方などのポイントが示されている。しかし、これらは衣生活の一部であり、衣生活の大部分は着用である。そこで、本研究では、「衣生活」と「消費生活・環境」に着目し、小学校の家庭科を履修済みの大学生の実態をもとに、小学校におけるこれまでの家庭科教育を見直すことを目的としている。環境に配慮した消費者を育成するために、これから大切にすべきこと、改善すべきことを明らかにしていきたい。

2. 方法

小学校の家庭科で学習した衣生活の知識及び技能に関わる事前アンケートを実施し、大学生の現状を把握した。次いで事前アンケートの内容を踏まえながら小学校家庭科教育法の講義を実施し(小井戸2023)、講義後、事後アンケートを実施した。対象とした大学生は、国立大学の教育学部の3年生の2クラス212名である。講義前にFormsで作成した事前アンケートを実施した。アンケート項目は、学習指導要領の衣生活で示されている指導内容から25問を設定した(表1)。講義は2023年6月12日の2限と3限に行った。

講義の内容は、小学校の家庭科で学習したことに関する事前アンケートの結果を示し、小学校家庭科には3つの柱があることを説明した。次に家庭科の目標、見方・考え方、学習過程について確認した。事前のアンケート結果を示し、衣生活の目標や指導内容について説明した。学習指導要領解説では「季節や状況に応じた日常着の快適な着方について理解すること」と記述されていることから、衣服内気候やclo値についてふれた。多くの指導事項があるにも関わらず、家庭科の授業数は少ない。そこで暑い季節や寒い季節の衣服の着方を考えるために筆者が考えた小学6年生の授業の一部を体験してもらい、実践的・体験的な授業について考えた。夏の衣服の形や布の特徴を調べる活動を通して、布の種類によって吸水性や通気性が違うことや衣服の形・色によって感じ方が違うことに気づき、夏の季節に合わせた衣服の快適な着方について理解する内容と、冬の衣服の着方による暖かさの違いを比較する活動を通して、衣服の着方によって暖かさが変わることに気づき、暖かく過ごすための衣服の着方について理解することができる内容である。最後に一つの題材をさまざまな見方・考え方で捉え、考えることの大切さを伝えた。

「日常着の快適な着方の理解」は、通常、「健康・快適・安全」の見方・考え方を中心に授業が展開される。しかしこれだけで授業を組み立てても、よりよい生活にはならない。そこで、「持続可能な社会の構築」の視点から、衣服の廃棄量の多さや衣服を作るまでにかかるエネルギー量など、衣服に関する現状を説明した。衣服について学習することは自分が健康で、快適で、安全な生活を送れるだけでなく、環境に配慮した生活を送ることにつながると伝えた。複数の見方・考え方を取り入れた授業にすることで、衣生活だけでなく消費生活・環境に関わる学習もでき、自分の生活に活かす授業となる。講義後に、Formsで作成した事後アンケートに講義時間内で回答してもらった(表2)。本論文では、事前・事後アンケートの結果から、これからの環境との関係性を考えた家庭科衣生活分野の授業について考えていきたい。

表1 事前アンケートの項目

1	小学校の家庭科の授業で覚えていることを教えてください。
2	被服に関わる授業について覚えていることを教えてください。
3	被服に関わる内容で、あなたが苦手なことは何ですか。
4	被服に関わる内容で、小学生が苦手意識をもつ内容は何だと思いますか。
5	家庭科の被服に関わる学習の中で、今一番使っている内容(技能)は何ですか。
6	家庭科の被服分野を教える自信はありますか。
7	服を買う時、何に注意しますか。
8	服を買う時、表示を見て買いますか。
9	どの表示を見ますか。
10	小学校で作ったナップザックを今も持っていますか。
11	小学校で作ったナップザックを使っていますか。
12	小学校で作ったエプロンを今も持っていますか。
13	小学校で作ったエプロンを使っていますか。
14	衣服にはどのような働きがありますか。
15	あなたが着る服は、誰が選んで買っていますか。
16	暑い時、寒い時、どんな条件がそろえば気持ちよく過ごせますか。
17	(前の質問の続き) そのために、どんな工夫をしますか。
18	暑い時、寒い時、あなたの家族はどんな工夫をしていますか。
19	どんなことを考えて、服を選んだり着たりしますか。
20	衣服の選び方で、季節によって気を付けていることや工夫していることはありますか。
21	衣服の着方で、季節によって気を付けていることや工夫していることはありますか。
22	衣服の選び方や着方で、活動によって気を付けていることや工夫していることはありますか。
23	服を選ぶときにこだわっていること、大切にしていること、考えていることについて優先順位をつけて3つ書きましょう。
24	衣服を大切にし、気持ちよく着るためには、どのようなことが大切ですか。
25	衣服を洗濯する時に気をつけていることはありますか。

表2 事後アンケートの項目

1	「暑い季節はこればっかり」の授業体験で、初めて知ったことはありますか。
2	どんなことを知りましたか。
3	今日の授業を振り返り、暑い季節の衣服の着方で工夫したいことはありますか。
4	工夫したいことを書きましょう。
5	「寒い季節はこればっかり」の授業体験で、初めて知ったことはありますか。
6	どんなことを知りましたか。
7	今日の授業を振り返り、寒い季節の衣服の着方で工夫したいことはありますか。
8	工夫したいことを書きましょう。
9	衣服の着方について小学校で「こんなことを知りたかったな」「こんな学習がしたかったな」と思うことはありますか。
10	できるだけ詳しく書いてください。
11	家庭科の被服分野を教える自信はありますか。

3. 結果

3.1. 事前アンケートの結果

3.1.1. 小学校の家庭科の授業で覚えていること

小学校の家庭科の授業で覚えていることを自由記述で尋ねた。記述内容は、学習指導要領で示されている家庭科の指導内容で分類した。その結果（表3）、「食生活」に関わる記述が53.4%と最も多く、次いで「衣生活」（36.0%）、「住生活」（6.0%）の順であった。「衣生活」では、裁縫の製作実習についての記述が多く、「ナップザックづくり」「ティッシュケースづくり」など、ミシンや裁縫道具を用いて製作したことを記述していた。「食生活」と「衣生活」で約9割を占めており、実践的・体験的な活動についての記憶が鮮明に残っていることが分かった。一方で、家庭科の授業の土台となる「家族・家庭生活」に関わる内容は2人（0.6%）のみで、「家族構造について」「家庭生活」と抽象的な記述であった。「消費生活・環境」も、5人（1.4%）と少ない結果となった。「お金の使い方」「金融」「買い物の仕方」「ゴミなどの資源について」などと記述しており、お金や買い物に関わる内容を覚えている学生がほとんどであった。家庭科の学習では、4つの内容を単体で扱うのではなく、関連させて学習することが重要である。「調理実習」「裁縫」「お金の使い方」などは、題材の中心である。このように中心で扱ったことについては覚えているが、題材の中心と関連させて学習したことについては覚えていない。「消費生活・環境」は、持続可能な社会の構築に向けてどの題材でも関連させる必要のある内容である。題材指導計画を作成するときに、これまで以上に教師側が「消費生活・環境」の内容を意識して題材を考える必要がある。

表3 小学校の家庭科の授業で覚えていることを教えてください。

	該当数	割合
家族・家庭生活	2	0.6
衣生活	126	36.0
食生活	187	53.4
住生活	21	6.0
消費・環境	5	1.4
その他	9	2.6
合計	350	100

表4 被服に関わる授業について覚えていることを教えてください。

	該当数	割合
衣服の着方	13	4.0
衣服の手入れ	28	8.7
手縫い	38	11.8
ミシン縫い	68	21.1
裁縫	18	5.6
布を用いた製作	145	45.0
その他	12	3.7
合計	322	100.0

注)なお1つの記述に対して複数の内容に当てはまる場合もそれぞれカウントしている。

次に、被服に関わる内容に絞って覚えていることを自由記述で尋ねた。記述内容は、学習指導要領で示されている衣生活の指導内容で分類した。その結果（表4）、「布を用いた製作」が45.0%と最も多く、次いで「ミシン縫い」（21.1%）、「手縫い」（11.8%）の順であった。「布を用いた製作」では、「親にプレゼントするエプロンとか枕カバーを選んで作ったこと」「5年生の宿泊学習に合わせてナップザックを作った」など、製作したものだけでなく、目的まで覚えている学生がいた。「ミシン縫い」「手縫い」では、玉結びや玉留め、なみ縫いなどの技能について記述していたり、「ミシンのボビンをつけるのが難しかった」「針の穴に通すのが難しかった」など、苦戦したことを記述していた。今回の講義で扱った「衣服の着方」については、13人（4.0%）と少なかった。「季節に合う服装」「服の素材を調べた」「衣服の働き」などと記述しており抽象的であることから、実践的・体験的活動を伴った学習は、記憶に強く残ることが分かる。

3.1.2. 被服に関わる内容で苦手なこと

被服に関わる内容で苦手なことについて自由記述で尋ねた。その結果（表5）、「手縫い」が32.0%と最も多く、次いで「ミシン縫い」（26.1%）、「裁縫」（18.9%）の順であった。「手縫い」については、「なみ縫い以外の縫い方が難しかった」「玉留め、玉結び」など、習得すべき技能について苦手と感じている学生が多かった。「ミシン縫い」については、「家庭科の授業でしかミシンを扱ったことがないため、ミシンの取り扱いや真っ直ぐ縫うことが苦手だった」「下糸の付け方。今でもわからない」など、日常生活で使う機会が少ないために、苦手意識が出たことが分かる。「裁縫」については、「裁縫全般」「糸通し」「まっすぐに縫うこと」などの記述があり、ミシンか手縫いか判断できなかったが、どちらにも関わる内容であった。

また、被服に関わる内容で小学生が苦手意識をもつ内容についても自由記述で尋ねた。その結果（表5）、

「裁縫」が30.6%で最も多く、次いで「手縫い」(27.4%)、「ミシン縫い」(24.2%)の順であった。「ミシン」なども含めて、細かい作業が多いと集中力も必要で、うまくできない子が多い。「裁縫は、細かい手先の技術が必要であったり、単純作業の繰り返しになったりすることが多いため、苦手意識をもつ子供も多いのではないかなど、技能習得には集中力や手先の器用さが必要であり、習得までにその力が持続しないこともあると考えていることが分かる。自分が経験したり、苦戦する仲間を見たりしていることから、自分が苦手なことと小学生が苦手と感じることは同じ傾向になっている。

表5 被服に関わる内容で、あなたが苦手なこと／小学生が苦手意識をもつことは何ですか。

	自分		小学生	
	該当数	割合	該当数	割合
衣服の着方	7	3.2	4	1.6
衣服の手入れ	22	9.9	21	8.5
手縫い	71	32.0	68	27.4
ミシン縫い	58	26.1	60	24.2
裁縫	42	18.9	76	30.6
布を用いた製作	4	1.8	7	2.8
その他	18	8.1	12	4.8
合計	222	100.0	248	100.0

注なお1つの記述に対して複数の内容に当てはまる場合もそれぞれカウントしている。

表6 家庭科の被服に関わる学習の中で、今一番使っている内容(技能)は何ですか。

	該当数	割合
日常着の快適な着方	49	23.3
ボタンつけ	35	16.7
洗濯(手洗い)	24	11.4
布へのしるしつけ	0	0.0
布を裁ちばさみで裁つ	0	0.0
縫い針に糸を通す	4	1.9
玉結び・玉留め	21	10.0
なみ縫い	8	3.8
返しぬい	0	0.0
かがり縫い	2	1.0
ミシンぬい	9	4.3
マチ針で布をとめる	0	0.0
アイロン	58	27.6
合計	210	100

3.1.3. 家庭科の被服に関わる学習の中で、一番使っている内容(技能)

被服に関わる内容で、生活で一番使っている内容について13項目から1つ選んでもらった。項目については、学習指導要領で示されている衣生活の習得すべき技能を洗い出し、13項目を設定した。その結果(表6)、「アイロン」が27.6%で最も多く、次いで「日常着の快適な着方」(23.3%)、「ボタンつけ」(16.7%)の順であった。「アイロン」「ボタンつけ」が多かったことから、大学生になり、自分の衣服は自分で手入れをするようになったり、アイロンが必要な衣服を選んで着るようになったりした可能性もある。「日常着の快適な着方」についても、自分の衣服は自分で選ぶようになったため、使っている技能であると考えられる。しかし事前アンケートの「衣服の着方」は13人(4.0%)しか覚えていなかった。

3.1.4. 家庭科の被服分野を教えることについて

家庭科の授業で、被服分野を教える自信があるかどうかについて尋ねた。その結果、「はい」が11.0%、「いいえ」が89.0%で、自信のない学生が多くいることが分かった。苦手意識に関わる質問でもあったように、習得すべき技能が多く、習得するまでに時間がかかる技能が多いため、苦手と感じていると考えられる。自分もなかなかうまくできないことが多い中、教えるとなると不安を感じる学生が多いと考えられる。

3.1.5. 暑い時、寒い時に気持ちよく過ごすための条件

住生活の内容と一緒に、暑い時と寒い時の過ごし方について学習する題材がある。どのような条件が揃うと気持ちよく過ごせるか自由記述で尋ねた。その結果(表7)、「適切な温度」という記述内容が32.5%で最も多く、次いで「適切な服」(20.9%)、「通気性」(14.1%)の順であった。

表7 暑い時、寒い時、どんな条件がそろって気持ちよく過ごせますか。

	該当数	割合
体温調節ができる	16	5.1
適切な温度	101	32.5
適切な湿度	32	10.3
季節感のある服	2	0.6
着心地が良い	11	3.5
通気性	44	14.1
適切な服	65	20.9
遮熱	1	0.3
遮光	5	1.6
保温	11	3.5
その他	23	7.4
合計	311	100

表8 暑い時、寒い時、あなたは／あなたの家族はどんな工夫をしていますか。

	自分		家族	
	該当数	割合	該当数	割合
冷暖房器具	40	12.5	90	27.9
着脱	36	11.3	17	5.3
衣服の素材	56	17.5	33	10.2
衣服の枚数	47	14.7	37	11.5
衣服の色	3	0.9	0	0.0
服	61	19.1	38	11.8
場所	3	0.9	2	0.6
窓(換気・遮光)	20	6.3	36	11.1
小物	14	4.4	20	6.2
天気	16	5.0	0	0.0
食べ物	4	1.3	14	4.3
その他	20	6.3	36	11.1
合計	320	100	323	100

注)なお1つの記述に対して複数の内容に当てはまる場合もそれぞれカウントしている。

適切な温度や通気性については、冷暖房器具を使ったり、衣服や小物で調整したり、さまざまな方法が考えられる。そこでそのような状態にするために、どのような工夫をするかを自由記述で尋ねた。その結果(表8)、「服」が19.1%と最も多く、次いで「衣服の素材」(17.5%)、「冷暖房器具」(12.5%)の順であり、様々な工夫をしていることが分かった。「服」については、衣服の形や厚さ、季節に合ったものなど、自分が快適に過ごすための工夫が記述されていた。

さらに家庭の現状を把握するために、家族が工夫していることも自由記述で尋ねた。その結果(表8)、「冷暖房器具」が27.9%と最も多く、次いで「服」(11.8%)、「衣服の枚数」(11.5%)の順であった。「暑い時は無理せずエアコンをつける」「扇風機を使う」など、冷暖房器具で調節している家庭が多いことが分かった。服を工夫して適切な環境にすると答えた学生が多かったが、家では冷暖房器具を活用している家庭が多い結果となった。育ってきた家庭での生活の仕方と学生の生活に、違いが出ている。

3.1.6. 衣服の選び方・着方について

日頃の衣服の選び方について自由記述で尋ねた。その結果(表9)、「天気」が23.0%と最も多く、次いで「見た目」(15.2%)、「自分に合う」(10.5%)の順であった。「その日気温や天気には合うかどうか」「その日の最高気温と最低気温を元に選ぶ」などの保健衛生上の働きに関わる記述があり、天気予報を確認してから衣服を選ぶ学生が多いことが分かった。その次に多いのが「見た目」である。「デザイン」「おしゃれ」などの記述があり、社会活動上の働きについて考えていることが分かった。

季節によって気を付けていることや工夫していることについても自由記述で尋ねた。衣服の選び方については(表10)、「素材」が30.8%と最も多く、次いで「色」(13.8%)、「厚さ」(10.7%)の順であった。「花粉のつきにくい服を選ぶ」「私は暑がりなので、なるべく夏は汗をかいても快適に過ごせるようにさらさらした生地のものを選んでる。冬は着膨れしないように薄い生地を何枚か重ねて着るようにしている」など、自分の特徴に合わせて選んでいる学生もいることが分かった。「色」については、「服の色は夏であれば涼しげな色、冬であれば暖かい色を取り入れていること」「黒っぽいのは冬用として購入する」などの記述があり、季節に合わせた色を選択していた。「厚さ」については、「夏は生地が薄いもの、冬は裏起毛のものを着る」「夏は薄いものを着て、冬は分厚いものを重ね着する」などの記述があった。

衣服の着方については(表11)、「着脱・羽織」が26.5%と最も多く、次いで「枚数」(16.5%)、「素材」(11.2%)の順であった。「日によって調整しにくい時は、脱ぎやすいものを選ぶ」「春や秋は、羽織を持って行って調節できるようにする」「夏のエアコン対策で薄手の羽織を一枚持っておく」などの記述があり、快適に過ごすために着方を工夫していることが分かった。「枚数」については、「夏は重ね着をしない、冬は暖くなるまで着る」という記述がある一方で、「冬は着すぎないように」という記述も見られた。

最後に、服を選ぶ時に大切にしていることを3つ記述してもらった。その結果(表12)、優先順位が一番高かった項目は、「見た目」(24.3%)であった。「デザイン」「見た目」と記述してあり、「見た目」が重要なポイントであることが分かる。2番は「値段」(17.6%)である。「値段は相応か」「値段がリーズナブルであるか」などの記述があった。3番は「素材」である。「生地感」「質感」という記述もあった。全体を通して見ると、「値段」「見た目」は外せないポイントであることが分かる。

表9 どんなことを考えて、服を選んだり着たりしますか。

	該当数	割合
素材	12	3.5
見た目	52	15.2
組み合わせ	16	4.7
着心地	29	8.5
手入れ	2	0.6
季節	14	4.1
天気	79	23.0
TPO	26	7.6
気分	8	2.3
動きやすさ	9	2.6
自分に合う	36	10.5
その他	60	17.5
合計	343	100

表10 衣服の選び方で、季節によって気を付けていることや工夫していることはありますか。

	該当数	割合
着脱・羽織	23	9.1
気温	16	6.3
季節感	15	5.9
素材	78	30.8
形	16	6.3
色	35	13.8
厚さ	27	10.7
その他	43	17.0
合計	253	100

表11 衣服の着方で、季節によって気を付けていることや工夫していることはありますか。

	該当数	割合
着脱・羽織	69	26.5
気温	17	6.5
季節感	7	2.7
素材	29	11.2
形	19	7.3
色	8	3.1
厚さ	21	8.1
枚数	43	16.5
その他	47	18.1
合計	260	100

注)なお1つの記述に対して複数の内容に当てはまる場合もそれぞれカウントしている。

表12 服を選ぶときにこだわっていること、大切にしていること、考えていることについて優先順位をつけて3つ書きましょう。

	1番		2番		3番	
	該当数	割合	該当数	割合	該当数	割合
値段	38	18.1	37	17.6	23	11.0
見た目	51	24.3	34	16.2	18	8.6
天気	21	10.0	8	3.8	2	1.0
長持ち	3	1.4	6	2.9	4	1.9
TPO	6	2.9	8	3.8	12	5.7
着心地	18	8.6	12	5.7	20	9.5
素材	6	2.9	14	6.7	35	16.7
自分に合うか	21	10.0	16	7.6	11	5.2
組み合わせ	1	0.5	12	5.7	6	2.9
サイズ	11	5.2	12	5.7	9	4.3
手入れ	2	1.0	1	0.5	8	3.8
流行り	1	0.5	1	0.5	1	0.5
その他	31	14.8	49	23.3	61	29.0
合計	210	100	210	100	210	100

3. 1.7. 服を買う時について

衣服を買うときに注意することについて自由記述で尋ねた。記述内容を表13のように分類した。その結果、「値段」が24.6%と最も多く、次いで「素材」(19.0%)、「デザイン」(11.7%)の順であった。自分で選んで買っている学生がほとんどであるため、値段は重要なポイントであることが分かる。「素材」については、「縮みにくい」「毛玉がつきやすい」「洗えるか」「シワにならない素材か」など、手入れに関わるような視点で素材を見ている学生がいることが分かった。自分の衣服を自分で管理することが多いため、家計や手入れの視点で買い物をしていると考える。

衣服を買うときに表示を見るかどうかについて尋ねた結果、「はい」が36.2%、「いいえ」が63.8%で、「いいえ」と答える学生が多い結果となった。「はい」と答えた36.2%の学生にどの表示を見るか自由記述で尋ねた。その結果(表14)、「洗濯」が41.0%と最も多く、次いで「素材」(36.2%)、「サイズ」(9.5%)の順であった。服を買うときに注意することでも、「素材」や「手入れ」で選択に関わる記述が見られた。「洗濯可かどうか」「家で洗濯できるか」という記述からも分かるように、自分で衣服を管理する際、洗濯のしやすさは学生にとって重要であることが分かる。「素材」については、「綿がいい」「私は綿製品が好きなので素材の割合が書いてある表示を見る」と自分の好みを書いている学生もいた。

表13 服を買う時、何に注意しますか。

	該当数	割合
値段	101	24.6
素材	78	19.0
サイズ	40	9.8
デザイン	48	11.7
自分に合うか	17	4.1
組み合わせ	16	3.9
着心地	22	5.4
長持ち	12	2.9
手入れ	22	5.4
季節感	11	2.7
色	11	2.7
その他	32	7.8
合計	410	100

表14 どの表示を見ますか。

	該当数	割合
洗濯	43	41.0
干し方	3	2.9
アイロン	1	1.0
素材	38	36.2
サイズ	10	9.5
値段	7	6.7
その他	3	2.9
合計	105	100

注)なお1つの記述に対して複数の内容に当てはまる場合もそれぞれカウントしている。

3. 1.8. 衣服の手入れについて

衣服を大切に、気持ちよく着るために大切なことを自由記述で尋ねた。その結果(表15)、「洗濯」が43.8%と最も多く、次いで「保管」(16.8%)、「長く着る服・好きな服の購入」(9.1%)の順であった。「素材によって洗剤を変える。表示を確認し、表示通りに適切に洗濯を行う。」「洗濯をして、きちんと管理することで、清潔に保つこと。」などの記述があり、洗濯表示を見て衣服に合った方法で洗濯をすることが大切であると考えている。「保管」では、「ちゃんと洗濯したり、綺麗にたたんだりすること」「表示に気をつけて正しい洗濯の仕方や収納の仕方を丁寧に行う」などの記述があり、洗濯とセットで保管まで丁寧に行うことが大切であると記述していた。「長く着る服・好きな服の購入」については、「自分が欲しい服だけ買うこと」「きちんと必要な物だけを買ひ、何度も着まわしたりできるようにする」などの記述があった。

洗濯をする時に気をつけていることについても、自由記述で尋ねた。その結果（表16）、「色うつり」が23.7%と最も多く、次いで「洗い方」（22.9%）、「ネット」（20.4%）の順であった。「白色の服と色物の服は同時に洗わない」「色が出やすいものと色移りしやすいものは別々に洗うこと」などと記述しており、色移りがないように気をつけていることが分かった。「洗い方」では、「裏返しにして傷まないようにする」「丈夫な生地のを洗う日と洋服を洗う日を分け、洗剤も型崩れ防止のものを使うようにしている」など、さまざまな工夫が見られた。「ネット」では、「大切な服は洗濯ネットにいている」「高い服はオシャレ着洗い、ネットに入れる」など、大切に扱っていることが分かった。

表15 衣服を大切にし、気持ちよく着るためには、どのようなことが大切ですか。

	該当数	割合
洗濯	120	43.8
TPO	12	4.4
アイロン	17	6.2
長く着る服・好きな服の購入	25	9.1
着る回数	3	1.1
保管	46	16.8
補修	4	1.5
その他	47	17.2
合計	274	100

表16 衣服を洗濯する時に気をつけていることはありますか。

	該当数	割合
色うつり	66	23.7
ネット	57	20.4
洗い方	64	22.9
洗剤の種類・量	35	12.5
干し方	10	3.6
その他	47	16.8
合計	279	100

注)なお1つの記述に対して複数の内容に当てはまる場合もそれぞれカウントしている。

3.1.9. 小学校で作ったナップザック、エプロンについて

小学校の家庭科では、ミシンの学習でナップザックを作ることが多い。ナップザックを今も持っているかどうか尋ねた。その結果、持っている学生が51.0%、持っていない学生が49.0%となった。そのナップザックを今も使っているかどうか尋ねた。その結果、使っていない学生が92.9%で、ほとんどの学生が使っていないことが分かった。多くの時間をかけ、子どもたちは自分の持っている技能を使い、一生懸命製作する。その作品は、長く使われることはなく、所有されてもいないのが現状である。

ナップザックと同様に、ミシンの学習としてエプロンも製作することが多い。小学校で作ったエプロンを今も持っているかどうか尋ねた。その結果、持っている学生が55.7%、持っていない学生が44.3%であった。ナップザックと同様の結果である。そのエプロンを今も使っているかどうか尋ねた。その結果、今も使っているのは12.4%で、使っていないのは87.6%であった。ナップザックよりは使っている割合が多いものの、ほとんどの学生が使っていないことが分かった。

学習指導要領に示されている見方・考え方の一つである「持続可能な社会の構築」の視点から見ると、大人になっても使い続けられるものを作っていかなければならない。教材を見直す必要があると考えられる。

3.2. 事後アンケートの結果

3.2.1. 暑い時の授業体験を終えて

小学生に行った暑い季節についての授業体験後(小井戸2023)に、初めて知ったことがあるかどうかを尋ねた。その結果、「はい」が71.7%、「いいえ」が28.3%となった。初めて知ったことがある学生の方が多い結果となった。「はい」と答えた学生に対して、どんなことを知ったかを自由記述で尋ね、記述内容を5つに分類した。その結果（表17）、「吸水性」が41.8%と最も多く、次いで「通気性」（26.8%）、「素材の性質・特徴」（13.4%）の順であった。「吸水性」に該当する内容には、「吸水性にこんなに差があることを実感した」「生地の種類によって吸水速度に差が出ることを実感した」など、素材によって吸水性や吸水速度が違うことを初めて知ったことが分かった。「通気性」では、「通気性が素材によってこんなにも変わると初めて知った」「綿は汗の吸収に適していることは知っていたが、風をあまり通さないことは知らなかった」など、吸水性と同様に素材による差を実感していた。「素材の性質・特徴」では、「素材ごとに実際に試したこととはなかったの、麻の良さを初めて知った」「布の名前と性能が一致した」など、自分が持っている知識が実験を通して実感を持った理解ができたことが分かった。

さらに、これからの生活で工夫したいことがあるかどうか尋ねた。その結果、「はい」が88.7%、「いいえ」が11.3%と、生活に工夫したいと答えた学生が多かった。どんなことを工夫したいか自由記述で尋ねた結果(表18)、「素材の性質・特徴」が39.7%と最も多く、次いで「通気性」(24.9%)、「吸水性」(20.3%)の順であった。「素材の性質・特徴」では、「運動する時や室内で活動するときなどで素材を分ける」「風を通す服を着るようにしつつ、汗が染みるのを避けられるような素材、順番を選ぶ」など、素材の性質や特徴を活かした服選びをしたいという願いを持った学生が多くいた。「通気性」や「吸水性」では、「汗かきなので綿の素材の服もいいが、通気性に問題があるのでポリエステルも含んだ通気性も良く、吸水性も良い服を選んで着たい」「暑いと肌着を着なくなり、通気性のいいものだけ着ようと思うけど、吸水性の面からも考え、肌着を着用するようにしたい。また、タオルの生地も気にかけて使用したい」など、今までの自分の生活を振り返ったり、自分の特徴に合わせて考えたり、実践に向かう主体的な意見が多くみられた。

表17 「暑い季節はこればっかり」の授業体験で、
どんなことを知りましたか。

	該当数	割合
通気性	52	26.8
吸水性	81	41.8
素材の性質・特徴	26	13.4
授業の方法(実験方法)	21	10.8
その他	14	7.2
合計	194	100

表18 暑い季節の衣服の着方で工夫したいこと

	該当数	割合
通気性	59	24.9
吸水性	48	20.3
素材の性質・特徴	94	39.7
その他	36	15.2
合計	237	100

注)なお1つの記述に対して複数の内容に当てはまる場合もそれぞれカウントしている。

3.2.2. 寒い季節の授業体験を終えて

小学生に行った寒い季節についての授業体験後(小井戸2023)に、初めて知ったことがあるかどうかを尋ねた結果、「はい」が60.4%、「いいえ」が39.6%となった。「はい」と答えた学生に対して、どんなことを知ったかを自由記述で尋ね、記述内容を6つに分類した。その結果(表19)、「通気性・目の細かさ」は28.1%と最も多く、次いで「保温性」「順番」(18.5%)、「重ね着」(15.6%)の順であった。「通気性・目の細かさ」では、「目が細かければ細かいほど、風を通しにくくなっている」「着方を工夫する着眼点に目の荒さがある」など、目の細かさに着目して衣服を見た経験が少なく、衣服を選ぶ時に目の細かさという視点があることを初めて知った学生が多かった。「保温性」では「素材による体感温度の違いがここまで大きいとは思わなかった」、「順番」では「適切な順番で着なければ服の保温効果が損なわれる」など、体験を通して学んだことが記述されていた。「重ね着」では、「ただ単に重ね着するだけでは、暖かい一方で動きにくいので、単に重ね着をするのではなく、空気の層を大切にし、空気を閉じ込めることに意識を持っていくことが大切である」「重ね着によって温度が5°C近くも変化する」など、温度を測ることで科学的な根拠をもとに考えることができ、ただ重ねるだけでなく、どのように重ねたらよいかまで考えることができていた。

さらに、これからの生活で工夫したいことがあるかどうか尋ねた結果、「はい」が82.1%、「いいえ」が17.9%となった。「はい」と答えた学生に対して、どんなことを工夫したいか自由記述で尋ねた。その結果(表20)、「重ね着」が36.2%と最も多く、次いで「順番」(26.6%)、「通気性・目の細かさ」(12.6%)の順であった。「重ね着」では、「暖かいものをひとつ着て、体温を保つより、ゆったりしたものを複数重ねようと思った」「重ね着を工夫することで暖房などを使わず生活できるので、持続可能な社会を作るためにも工夫していきたい」など、どのように重ね着をしたらよいか考えている学生や、環境に配慮した生活にするために工夫したいと思っている学生がいた。「順番」では、「重ね着をする順番で中にゆったりとした服装で外側を目の細かいものにする」「ただ、重ね着をするだけでなく風を通しにくい素材のものを1番上に持ってくるという工夫をしたい」など、目の細かさが強く印象に残っていたようである。また素材の特徴を踏まえて重ね着の順番を考えていきたいと考えている学生が多かった。「通気性・目の細かさ」では、「ウィンドブレーカー以外にも、革製品や風を通さない防寒が出来る素材があると思うので、探してアウターに選びたい」「外に出るときはウィンドブレーカーを着て、防寒対策をしたい。特に自転車に乗るときは風を防ぐ

ために着たい」など、風を通さない素材を考えたり、活動に合わせて考えていた。

表19 「寒い季節はこれではぱっちり」の授業体験で、
どんなことを知りましたか。

	該当数	割合
保温性	25	18.5
通気性・目の細かさ	38	28.1
重ね着	21	15.6
順番	25	18.5
授業の方法(実験方法)	11	8.1
その他	15	11.1
合計	135	100

表20 寒い季節の衣服の着方で工夫したいこと

	該当数	割合
保温性	8	4.0
通気性・目の細かさ	25	12.6
重ね着	72	36.2
順番	53	26.6
その他	41	20.6
合計	199	100

(注)なお1つの記述に対して複数の内容に当てはまる場合もそれぞれカウントしている。

3.2.3. 衣服の着方について、小学校で学びたかったこと

衣服の着方について、小学校で知りたかったことや学習したかったことがあるかどうか尋ねた結果、「はい」が46.6%、「いいえ」が53.3%という結果となった。「はい」と答えた学生に対して、どんなことが学びたかったか自由記述で尋ね、記述内容を6つに分類した。その結果、「体験的な授業」が48.1%と最も多く、次いで「素材の特徴」(20.4%)、「現状」(7.4%)の順であった。「体験的な授業」では、「今日のように色々な生地で実験して、グループで考察していけるような授業を受けてみたかった。それを自分でもやってみたい」「実験を交えて、実際に体験することで学びを自ら得るという経験をしたかった。衣服に関しての家庭科の授業は印象に残りにくいと思うので、とてもよい学習方法だと感じた」など、体験的な学習は座学より学びが多く、楽しく学べたと記述している学生が多かった。「素材の特徴」では、「素材の違いがあるということを詳しく知りたかった」「通気性、吸水性はどれが一番いいのか、悪いのかを知りたかった。また化学繊維とそれ以外の繊維の違いをもう少し知りたかった」など、素材の名前や特徴など、もっと詳しく知りたかったことが分かった。「現状」では、「服がどれだけ捨てられているのか、安い服を沢山買うことは良い事なのかなど、持続可能な社会に関することを知りたかった。また安い服を長く着たり他のものとして再利用したりする工夫を知りたい」「現代において、オシャレを重視するあまり素材や国産のものでない服ばかりを着ているような気がする。だからこそ伝統的な服やオシャレではなく、過ごしやすい服での気温の変化や風邪への対策などの授業が受けたかった」「服が作られるまでの背景や、着られなくなった服のその後について、地球規模で考えることで、自分のことのように思えると感じたし、小学生の時に知りたかった」などの記述があった。今回の講義では、見方・考え方の「健康・快適・安全」の視点で体験的な活動をしてもらい、その後「持続可能な社会の構築」の視点から消費生活・環境について考えることを重点としていた。1つの題材から、家庭生活だけでなく視野を広げ、環境との関係を考えて生活について考えることをねらった。割合は少なかったが、「現状」に関わる記述内容は多く、自分事として考えられている学生が多いことが分かった。

3.2.4. 家庭科の被服分野を教えることについて

授業を終えて、被服分野を教える自信があるかどうかを尋ねた結果、「この授業で自信がついた」が68.4%と最も多く、次いで「ない」(29.7%)、「もともとある」(1.9%)の順であった。事前アンケートでは、「ない」が89.0%と非常に高かったが、今回の授業を通して、多くの学生に少しでも自信がついたことが分かった。事後アンケートの自由記述から分かるように、体験的な活動があると、授業の具体的なイメージがわき、自信がついたのではないかと考えられる。小学校でも、実践的・体験的な活動が重視されているが、大学生においても非常に重要であることが分かった。

4. まとめ

本論文では、教育学部の大学3年生212名に対して、事前アンケート、衣服の着方についての講義、事後アンケートを実施し、小学校家庭科の衣生活について、学習内容がどのように記憶されているのか、どのよう

に使われているのかに関して大学生の実態調査を分析した。この結果、実践的・体験的な授業についてはよく覚えていることから、実践的・体験的な授業が大切であることが分かった。また日頃の衣服の選び方・着方については、「暑がりや寒がりなので、なるべく夏は汗をかいても快適に過ごせるようにさらさらした生地のものを選んで着る。冬は着膨れしないように薄い生地を何枚か重ねて着るようにしている」などの記述があり、衣服で快適な環境を作り出そうとしている学生がいることが分かった。衣服の手入れについては、「素材によって洗剤を変える。表示を確認し、表示通りに適切に洗濯を行う」など、さまざまな工夫が見られた。記述内容の多くに、持続可能な社会の構築につながる素晴らしい生活実践が見受けられた。しかし残念ながらこれらの営みはそれぞれが点として実施されている。一つ一つの点を線で結び、自分が気を付けていることが、様々なところに繋がっていることを理解する必要がある。そのためには、教える側も内容間の連携を強く意識しなければならない。

今回の講義では、通気性や吸水性、重ね着の仕方などを実際に体験した。「吸水性にこんなに差があることを実感した」「素材による体感温度の違いがここまで大きいとは思わなかった」などの記述から分かるように、実感を伴った理解につながった。また「消費生活・環境」と関連させて、衣服の廃棄量、衣服が手元に届くまでにかかるエネルギーなどの現状を説明した。「服がどれだけ捨てられているのか、安い服を沢山買うことは良い事なのかなど、持続可能な社会に関することを知りたかった。また、安い服を長く着たり他のものとして再利用したりする工夫を知りたいと思った」などの記述があり、衣服の選び方、着方、手入れの仕方などを工夫することが、持続可能な社会の構築につながり、環境に配慮した生活になることを伝えることができた。廃棄の視点から見ると、小学校で製作したナップザックやエプロンは長く使用されていないため、教材を見直す必要がある。以上の実践から、現状を知ることが重要であることが分かった。現状を知り生活を工夫することは、自分の生活も環境にもよりよくなると理解することにつながる。環境の変化を即座に感じることは難しいが、現状と学習した内容をつなげて考え、生活を工夫することが地球環境をよくすることにつながることを理解できる授業が今後も必要である。

参考文献

- 大和 総研 (2022), 「なぜ今、「サステナブルファッション」が望まれるのか」
https://www.dir.co.jp/report/research/economics/japan/20220222_022867.pdf (2023年7月23日参照)
- 外務省 (2023), 「SDGs アクションプラン 2023~SDGs 達成に向け、未来を切り拓く～」
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_Action_Plan_2023.pdf (2023年7月23日参照)
- 環境省 (2021), 「令和2年度 ファッションと環境に関する調査業務『ファッションと環境』調査結果」
https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/goodpractice/case25.pdf (2023年7月23日参照)
- 環境省 (2021), 「SUSTAINABLE FASHION これからのファッションを持続可能に」
https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/ (2023年7月23日参照)
- 経済産業省 (2021), 「第1回 繊維産業のサステナビリティに関する検討会 繊維産業の現状」
https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/textile_industry/pdf/001_05_00.pdf (2023年7月23日参照)
- 小井戸あや乃 (2023), 「持続可能な消費の視点からみた小学校家庭科衣生活分野の授業提案」, 日本消費者教育学会中部論集19号, pp.29-44
- 文部科学省 (2017), 「小学校学習指導要領 (平成29年度告示) 解説 家庭編」
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_009.pdf (2023年7月23日参照)
- 織 朱實 (2021), 「衣料廃棄物について考える」『国民生活』2021年4月号【No.104】, pp.18-20
- 大藪千穂・高橋彩那 (2018), 「若者の環境意識と行動」『消費者教育』第38巻, pp.89-98
- UN News (2019), 「UN launches drive to highlight environmental cost of staying fashionable」
<https://news.un.org/en/story/2019/03/1035161> (2023年7月23日参照)